

# 東国三つ葉ツツジで山は少しピンク色に、天城シャクナゲは静かに咲く天城山へ。

メンバー 深瀬眞男、深瀬富美子（山友会）

2008年5月23日（金） 晴

5月の末には、天城シャクナゲが咲く、朝日新聞出版、最新号の週刊「日本百名山」にも紹介があったので、天城シャクナゲを探しに出かけた。

自宅から3時間で、天城高原ゴルフ場（四辻）の駐車場に到着。今日は天気を持つものと期待して出発。新緑で柔かい緑の山は、山全体が少し赤味をおびていた。すぐ天城縦走路へと入り込む、以前ここに来たのは冬ばかりであったが、登山道が整備され、標識、木の階段が新しく作られていた。

万二郎登山口から登り始めると、樹林の中にピンクの三つ葉ツツジが出てくる。淡い緑の中に濃いピンク花が冴えている。万二郎岳の上部に登る毎に、ピンクの花（東国三つ葉ツツジ）が増えてくるのが良く分かる。

約1時間で万二郎岳のピークに出る。小休憩後、万三郎岳へ目指す、1月のこの山は凍りついていた事を思い出す、この時期の山は新緑で覆われ、ピンクの三つ葉ツツジでいっぱいである。尾根道からトウゴクミツバツツジのピンクの先に万三郎岳が高く見える。



ピンクの東国三つ葉ツツジと万三郎岳

万二郎岳から下って登ると、「アセビのトンネル」になり、新しい芽が出始めている。トンネルを過ぎ、梯子がある岩場を過ぎると石楠立<sup>はなたて</sup>に着く。そこにはマメザクラの巨木があり、周囲にはシャクナゲが出始める。長九郎山のシャクナゲに比べ、天城山のシャクナゲは巨木だ。期待していたが、今年は花芽が少なく開花したばかりで、真に静かに咲いていた。また、ブナの木が新芽を付けて、濃いイオンを周囲に撒き散らせている。急坂を登ると万三郎岳の山頂に達し、多くの登山者が休憩中であった。北側が開けているが富士山は不鮮明であった。

万三郎岳頂上から直接北へのルート（シャクナゲ群生地）は冬場には直接下降したが通行止めになっていた。稜線を5分ほど進んだ所から北側の涸沢分岐へ下る道が整備されている。三つ葉ツツジと所々にシャクナゲが咲いていた。四辻へトラバースの長い道は左の谷は人工林の檜、右斜面は自然林で明るく地面にも草木が生え、木の上では野鳥が囀っていた。赤茶色の木肌をもつヒメシャラの林を過ぎると万二郎岳への登山口に、ひと歩きで四辻の駐車場に戻って横浜へと帰る。



静かに咲くアマギシャクナゲ

眞男 記

「コースタイム」

天城高原ゴルフ場四辻8:05→万二郎分岐8:20→万次郎岳9:10 9:20→万三郎岳10:25  
10:50→涸沢分岐11:25→水場11:50 12:00→万二郎分岐12:45→四辻13:00